

令和2年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表1 定点における令和2年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率(%) (昨年度)	
東部地域	加西市別府町	(94)	2.1	(0.0)
	加東市社町	(56)	3.6※	(1.1)
	加東市滝野町	(87)	0.0※	(0.0)
	西脇市黒田庄町	(94)	0.0	(2.1)
	加古川市志方町	(94)	4.3	(0.0)
西部地域	神河町	(94)	2.1	(5.3)
	宍粟市山崎町	(94)	1.1	(1.1)
	佐用町	(94)	1.1	(5.3)
	上郡町	(94)	2.1	(0.0)
平均			1.8	(1.6)

供試虫: 令和2年5月20日、5月27日、6月1日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試した。
 検定: 簡易エライザ法による。
 ※ 供試数が規定数に満たなかったため参考値として示す。

表2 定点外における令和2年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率(%) (昨年度)	
西部地域	姫路市	(94)	3.2	(4.3)
	たつの市	(94)	1.1	(1.1)

供試虫: 令和2年6月1日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試した。
 検定: 簡易エライザ法による。

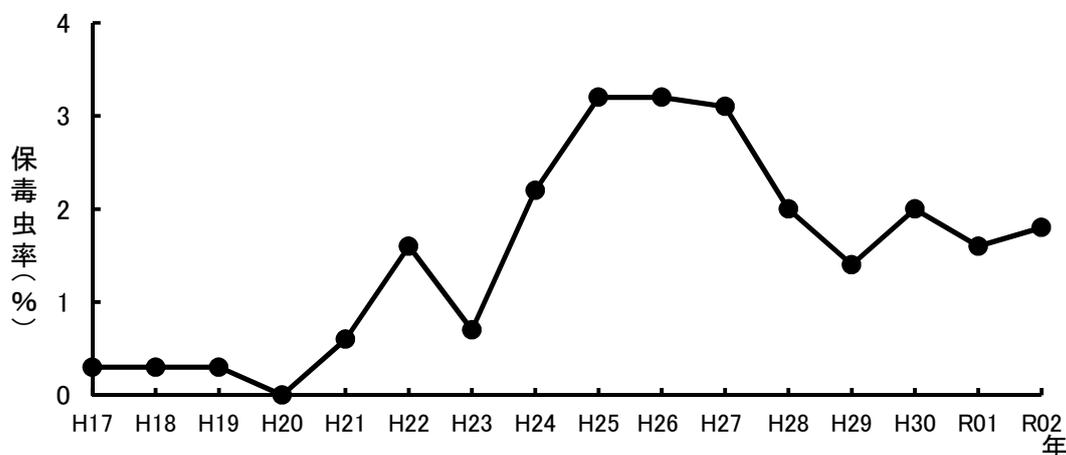


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平成21年以降高く推移し、平成28年に低下したものの、ここ数年は2%程度で推移している(図)。

今年の保毒虫率は、この時期の要防除水準である5%以上を示した地点は見られなかった。昨年に比べて保毒虫率は4地点で低くなり3地点で同等であったが、4地点で高くなった(表1、2)。地点によっては保毒虫率が高くなり、保毒虫が広域で確認されたので、今後も本病の発生に注意が必要である。

水稻生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病とヒメトビウンカの保毒を助長させるため、できる限り早く抜き取り感染拡大を防止する。詳しくは、「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびに広報動画「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照すること。

・イネ縞葉枯病防除マニュアル

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/shimahagare%20Version%201.03.pdf>)

・広報動画「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」

(<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U&feature=youtu.be>)